

雑、釋教	2733 (2925) ~ 2791 (2985)
------	---------------------------------

付記	497
----	-----

初句索引	499
------	-----

凡例

本稿は、前著（『拾遺愚草、下（部類歌）、四季歌注釈』）に続く、賀、戀、雜（旅、述懷、無常、神祇、釋教）歌の注釈である。底本は定家自筆本（『冷泉家時雨亭叢書』）に拠り、歌番号は、『藤原定家全歌集（冷泉為臣編）』（国書刊行会、昭和四九（一九七四）年）に従った。新編国歌大観③、133拾遺愚草は、上_レの末に藤川百首（1501～1600）を入れているために、（ほぼ）百番ずつずれている。（）内の番号は、新編国歌大観③133拾遺愚草の歌番号であり、〔 〕は他人の歌であることを示す。さらに歌の冒頭につく、①、②、③などの、丸入りの数字は、新編国歌大観第何巻に当たるかをあらわす。①、②、③は各々第一巻、第二巻、第三巻となる。なお注釈中の「全歌集」は、『訳注 藤原定家全歌集』（久保田淳著、河出書房新社。上巻は昭和六〇（一九八五）年、下巻は昭和六一（一九八六）年）のことである。【語注】の（歌）題は、『平安和歌歌題索引』（瞿麦会編、昭和六一（一九八六）年）に拠った。また表現においては、三代集の歌を重んじ、語の初出は後拾遺以降を考慮した。語の八代集の用例（数）は、『八代集総索引（和歌自立語篇）』（ひめまつの会編、大学堂書店、昭和六三（一九八八）年）に拠り、十五例以下を基準とした。定家の、新古今などの勅撰集所収歌の注釈（名）は、煩雑となるので、略称を用いたが、拙著『藤原定家名歌注釈』の「凡例」を参照していただければ幸いである。さらに『歌枕索引』は、『平安和歌歌枕地名索引』（ひめまつの会編、大学堂書店、昭和四七（一九七二）年）の略であり、『和歌文学大系』（明治書院）のシリーズは、上記の名称を省き、例えば、「明治・万代〇」などとした。そして、（貼紙）や、歌の本文の踊字の、（ヰ）、（ヱ）、（ヰ）については、原典尊重の立場から、もとのままとした。略称は以下の如くである。

『藤原定家研究〈増補版〉』安田章生著、至文堂、昭和五〇（一九七五）年…安田

『定家の歌一首』赤羽淑著、桜楓社、昭和五一（一九七六）年…赤羽一首

『藤原定家（日本詩人選11）』安東次男著、筑摩書房、昭和五二（一九七七）年…安東

『拾遺愚草古注（上）（中）』石川常彦校注、三弥井書店、昭和五八（一九八三）年、同六一（一九八六）年、その中の「拾遺愚草抄出聞書（C類注）」、「拾遺愚草不審」（上）、「拾遺愚草抄出聞書（D類注）」、「拾遺愚草摘抄」（以上（中））、なお未刊国文古註釈大系7に、「拾遺愚草抄出聞書」（B類注）が収められている。順に〈抄出聞書（C）〉〈不審〉〈（D）〉〈摘（抄）〉〈抄出〉聞書（・上・B）〉と略

『藤原定家の歌風』赤羽淑著、桜楓社、昭和六〇（一九八五）年…赤羽

『藤原定家研究』佐藤恒雄著、風間書房、平成一三（二〇〇一）年…佐藤研究

『新宮撰歌合〈建仁元年三月〉全注解稿（一）（五）』〔大阪工業大学紀要（人文社会編）五三～五六卷、二〇〇八～二〇一一年〕、後『新宮撰歌合全釈』（歌合・定数歌全釈叢書十九、風間書房、平成二六（二〇一四）年）所収…奥野注
コレクション日本歌人選011『藤原定家』村尾誠一著、笠間書院、平成二三（二〇一一）年…コレ